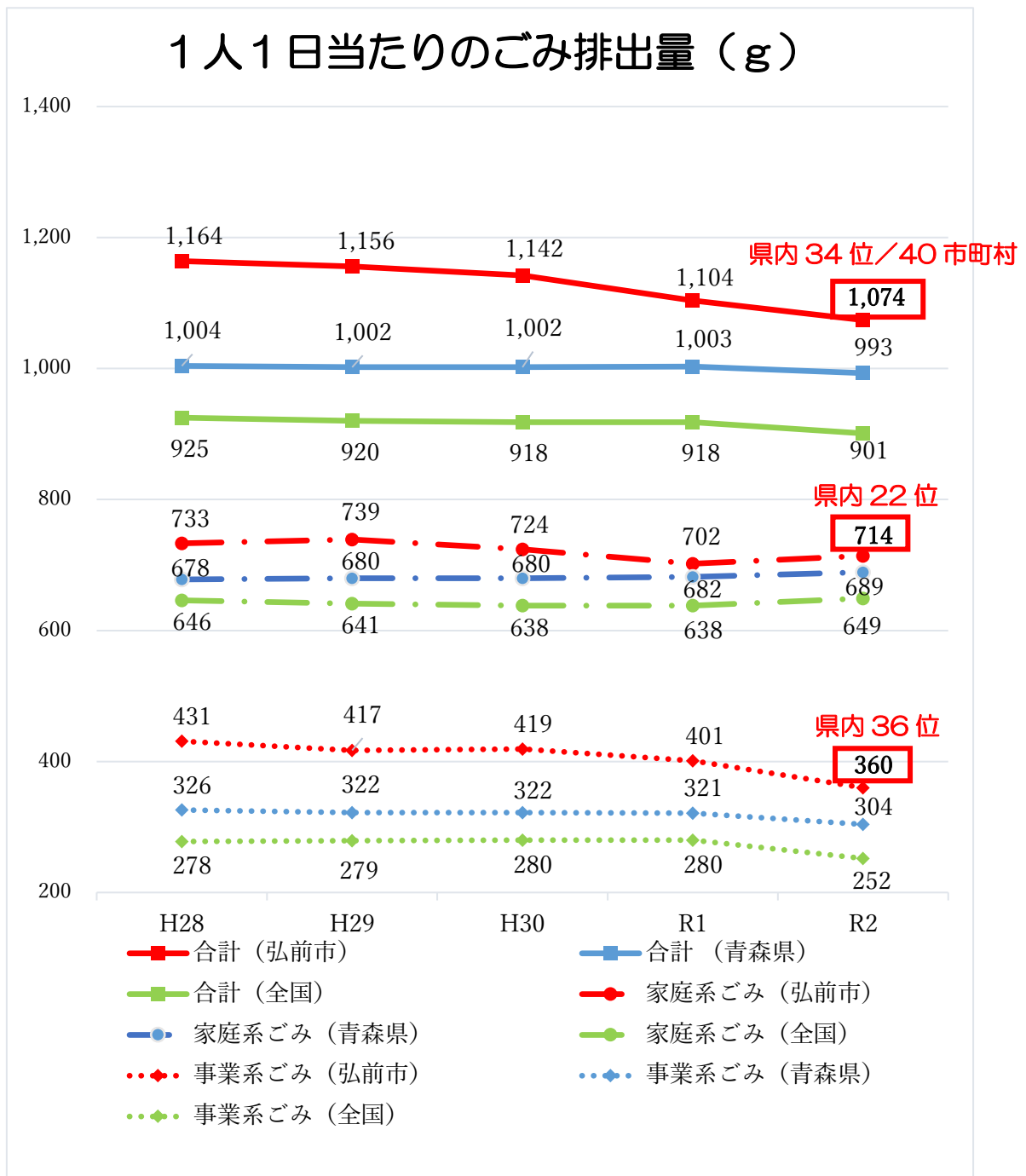


ごみの排出状況について

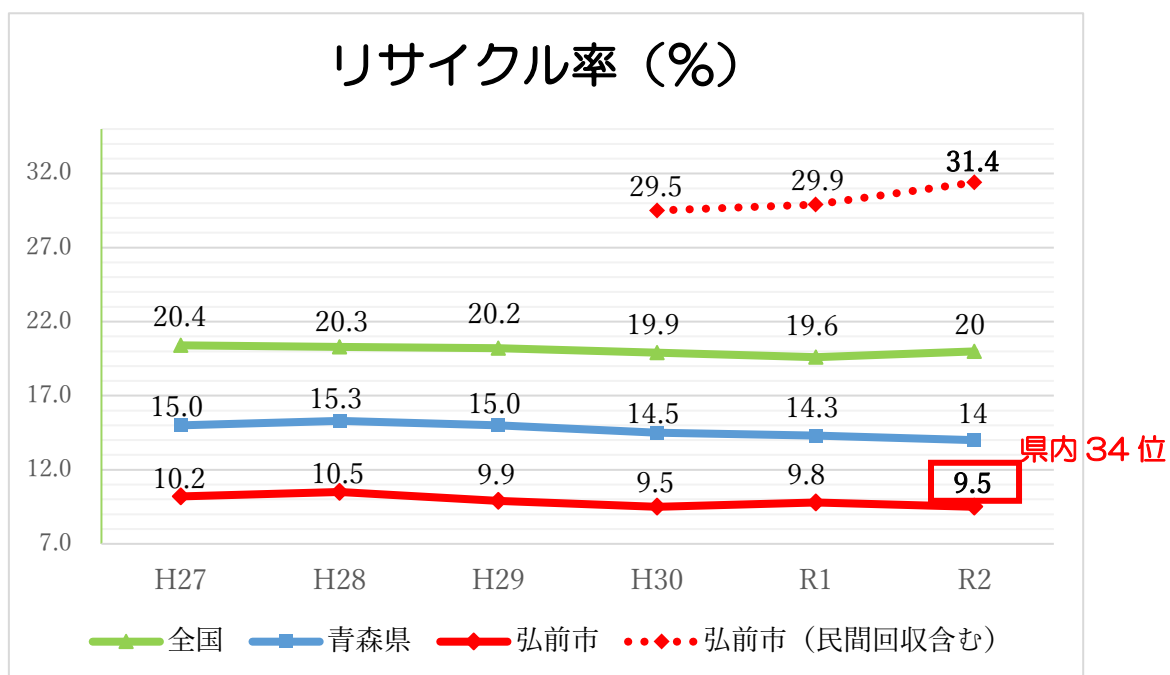
1. ごみ排出量及びリサイクル率の推移

本年4月に環境省から公表された令和2年度一般廃棄物処理実態調査の結果は下記のとおりとなりました。



1人1日当たりのごみ排出量は、1,074gで前年1,104gから 30g減少、40 市町村中 38 位から 34 位へと大きく改善しましたが、内訳を見ると、家庭系が前年から 12g増、事業系が 41g減と新型コロナウイルス感染症の影響を受けたライフスタイルの変化が排出傾向に表れる結果となっています。

なお、令和3年度の速報値では、家庭系が 705g、事業系が 367g、全体で 1,072gと同様の傾向が続く見込みです。



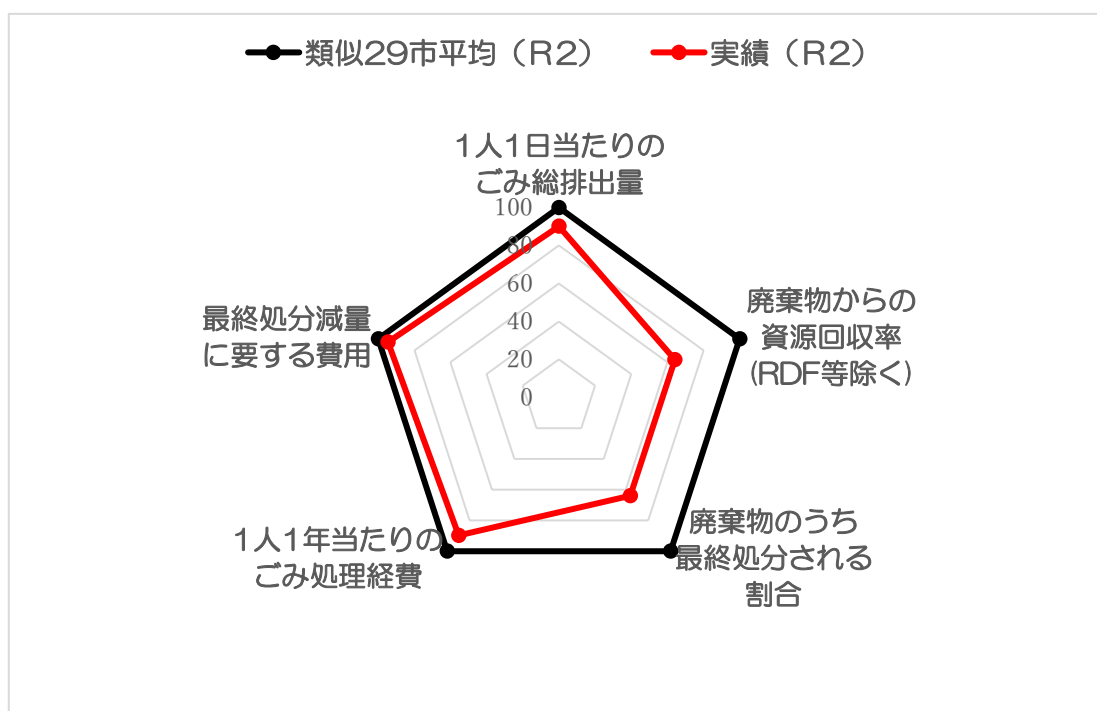
リサイクル率は、9.5%で前年 9.8%から 0.3 ポイント下降、40 市町村中 33 位から 34 位と順位を下げていますが、民間回収分を含めた実質リサイクル率について、県の調査をもとに推計したところ、前年 29.9%から 31.4%と 1.5 ポイント上昇する結果となっています。

2. 市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツールによる比較について

環境省が公表している「市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール」を用いて、令和2年度の本市のごみ処理状況について、全国の類似の人口規模、産業構造を持つ29市と比較評価を行った結果、下記のとおりとなりました。

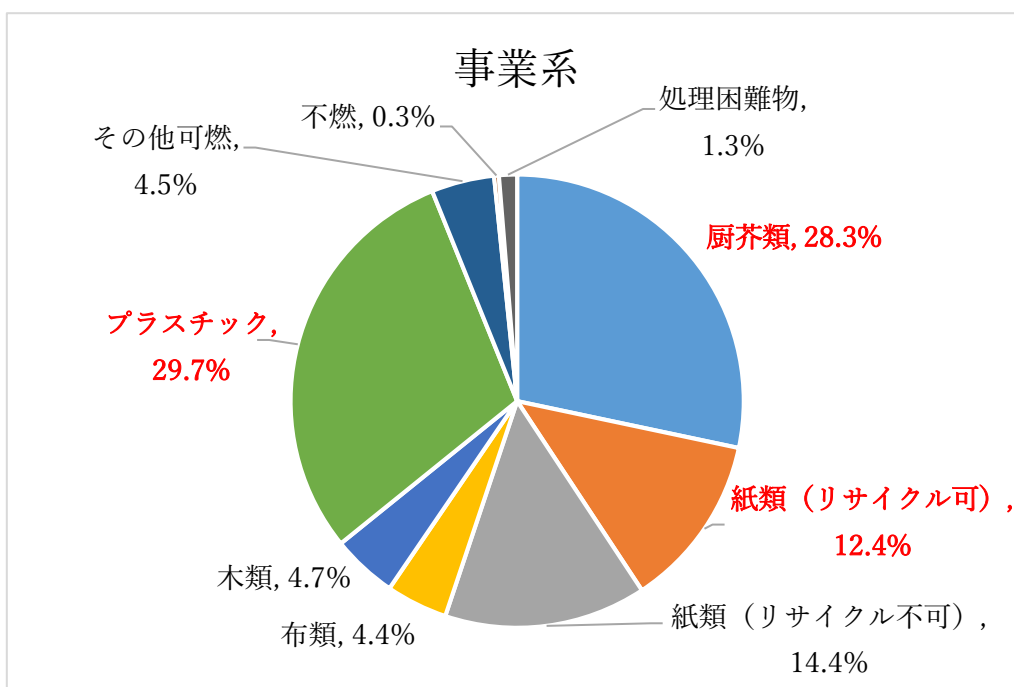
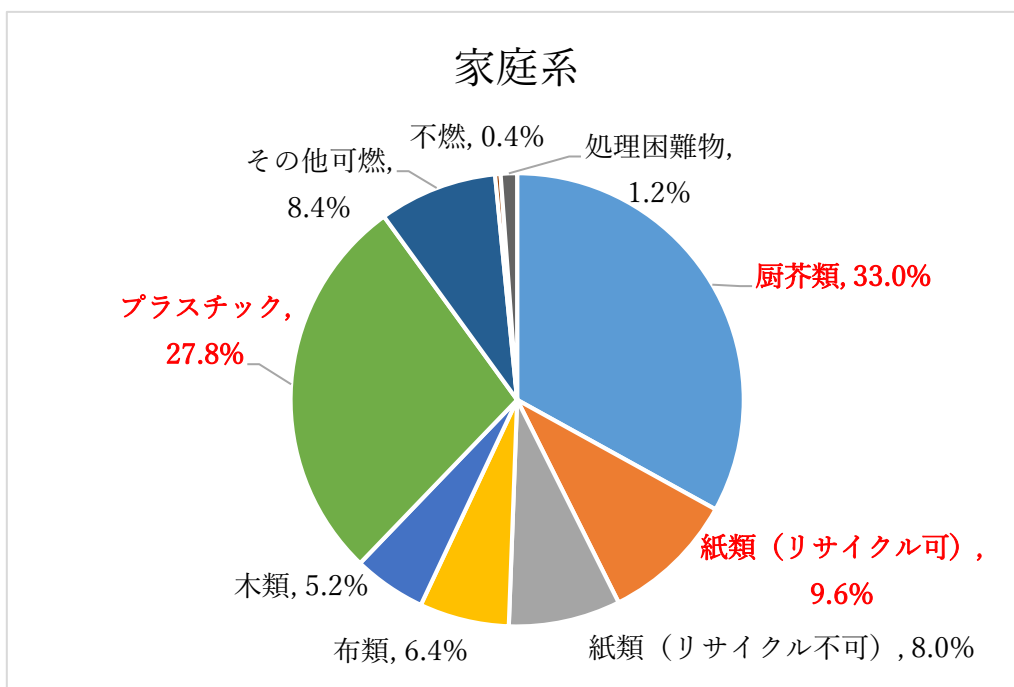
「1人1日当たりのごみ総排出量」は指数値 90.1 と前回平成30年度実績で比較評価を行った際の 82.6 から改善が見られますが、全ての項目で平均値を下回っています。特に「廃棄物からの資源回収率」の指数値 64.2、「廃棄物のうち最終処分される割合」63.8 と類似自治体に比べ行政回収による資源化率が低く、最終処分される割合が高い傾向となっています。

標準的な指標	1人1日当たりのごみ総排出量	廃棄物からの資源回収率 (RDF等除く)	廃棄物のうち最終処分される割合	1人1年当たりのごみ処理経費	最終処分減量に要する費用
	(g/人・日)	(t/t)	(t/t)	(円/人・年)	(円/t)
29市平均値(R2)	977	0.148	0.094	12,154	35,773
〃 最大	1,232	0.258	0.17	19,713	54,146
〃 最小	761	0.079	0	6,720	22,335
弘前市実績(R2)	1,074	0.095	0.128	13,401	37,706
〃 指数値	90.1	64.2	63.8	89.7	94.6
値の見方	指数値100が平均であるため、指数値が100を超えると良好な状態となる。				



3. 組成分析調査結果について

令和2年度の組成分析調査結果を見ると、家庭系は厨芥類が 33.0%と最も多く、次いでプラスチックが 27.8%と続きました。事業系は、プラスチックが 29.7%と最も多く、次いで厨芥類が 28.3%と続きました。また、それぞれリサイクル可能な紙類が1割程度含まれています。



4. 弘前市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について

基本計画に定める令和7年度の目標値との差は、1人1日当たりのごみ排出量で124g、実質リサイクル率で2.6ポイント、1人1日当たりの最終処分量が37gとなっています。

項目	年度	R2	R7（目標値）	目標との差
1人1日当たりのごみ排出量(g)		1,074	950	▲124
	家庭系ごみ(g)	714	670	▲44
	事業系ごみ(g)	360	280	▲80
リサイクル率(%)		9.5	-	-
実質リサイクル率(%)		31.4	34.0	2.6p
1人1日当たりの最終処分量(g)		137	100	▲37

目標達成に向けては、特に事業系ごみの減量が大きなポイントとなります。組成分析調査において、依然として、プラスチック・厨芥類・紙類が多い結果となっていることから、引き続き、産業廃棄物やリサイクル可能な紙類が混入しないよう、適正排出の指導とオフィス町内会などを通じたリサイクルの推進のほか、食品ロスの削減に向けた取組み等、事業者との協働を進めていく必要があります。

家庭系ごみは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、増加に転じていることが懸念されます。組成分析調査において、厨芥類が最も多くなっていることから、キエー口の更なる普及や3キリ運動の周知啓発に引き続き取り組んでいく必要があります。また、プラスチックについては、プラスチック資源循環促進法に合わせた、プラスチック資源の一括回収が、資源化量増加と最終処分量減少への今後のポイントとなります。